

会社の人間関係が良くなる ペップな社長の ペップトーク通信

2022年8月号 vol.8

【脳の特性を利用してとらえ方変換する】

今月は先月に引き続き「とらえ方変換」についてお伝えします。

実はこの「とらえ方変換」はすごく深いテーマなのです。

この「とらえ方変換」がしっかり身に付いてくると、今までなら腹を立てていたり悲しくなるような出来事があったとしても、心が穏やかで豊かであることができます。

よって複数回に分けてお伝えしていきたいと思います。

では本題にまいりましょう。

ペップトークセミナーで行うコンテンツの1つに「ありがとう、それは良かった」というものがあります。

人は何か好ましくない事が起こった時、「なんで?」「どうして?」とか「嫌だなあ」「ついてないなあー」などと思ってしまいがちです。

例えば、車で出かけようとした時にタイヤがパンクしていたとしましょう。

普通であれば「何でだよ！もー、ついてない！」とイライラしながらタイヤを交換。

そして目的地に向かう道中も出発が遅れた分、イライラしたままで運転するかもしれません。

こんな場面では先ほどの言葉「ありがとう、それは良かった」と心の中でつぶやきます。「何があるんだよ！ふざけんな！」という場面ですが、強制的に「ありがとう、それは良かった。」とつぶやくのです。すると感情では腹が立ってイライラしていても脳内では「えっ？何があるんだよ？何が良かったの?」と「ありがとう」や「良かった」に対する回答を自動的に探します。このパンクの例でいくと、例えば「走り出す前を見つける事ができて良かった。駐車場でならタイヤ交換もしやすく助かる」などの考えがあります。これはNLP(神経言語プログラミング)などで使われている理論の応用で、脳には質問を投げかけるとその答えを自動的に探そうとするという特性があります。これを利用して、良くないと思える出来事の中からでも良かったことや感謝できることを探す。そうすることで、同じ出来事でもとらえ方が変わって心穏やかでいる事ができたり、前向きな気持ちになることができるのです。

あなたも是非「ありがとう、それは良かった」を試してみてください。

社内コミュニケーションに悩んでいる
経営者、人事担当者におすすめです

ペップトークを実践している
「現役社長」が講師の
応援文化構築研修

- 社長(幹部)は頑張っているけど部下がついてこない
 - 社長(幹部)が突っ走ってついていけない
 - 人間関係がギクシャクしている
 - 会社を助け合う、応援し合える雰囲気になりたい
- などのお悩みはございませんか？

豊清工業株式会社社長の石原利彦が、2018年に会社を変える決意をしてから現在までの「応援文化構築」の道のりを踏まえた研修をお届けします。

<講師プロフィール>

石原利彦

- ・豊清工業株式会社 代表取締役
- ・日本ペップトーク普及協会認定講師

少年野球チーム旗の台クラブのヘッドコーチとして
チームにペップトークを導入。

楽しむ野球により無名のチームを
東京都大会優勝、全国大会ベスト8に導く。
代表を務める豊清工業株式会社では
社内のコミュニケーション活性化のために
ペップトークを導入し会社の雰囲気を変えさせ
コロナ禍でも過去最高売上を達成する。
「社員が楽しく本気で仕事に取り組む文化」
「社員同士が自然に応援し合える『応援文化』」
を構築中。



お問い合わせ: 豊清工業株式会社 業務課岩渕
043-498-3943 info@hosei-kohgyo.co.jp